

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

大阪製鐵株式会社（証券コード:5449）

【新規】

長期発行体格付	A
格付の見通し	ネガティブ

■格付事由

- (1) 主力製品である一般形鋼で国内トップシェアを有する普通鋼電炉メーカー。エレベーターガイドレールや鉄塔材などでも高い競争力を持つ。日本製鉄の連結子会社（20年3月31日現在持株比率65.85%）であり、グループの中核電炉メーカーとしての役割を担う。当社の堺工場は日本製鉄関西製鉄所和歌山地区（堺）の構内に立地しているなど、同社との関係性は強固である。12年にはインドネシアで当社初の海外拠点を設立し、海外事業の強化に取り組んでいる。
- (2) 当社の格付には日本製鉄の信用力を織り込んでいる。日本製鉄の経営戦略に沿った形で事業を展開しており、事業面で緊密な関係を構築している。社長をはじめ社外取締役を除く取締役全員が日本製鉄出身であるほか、人材交流も多く、人的関係における結びつきは強い。また、高いコスト競争力や技術力を背景に長期にわたって安定した業績を維持している。財務の安全性に関する指標も良好な水準にあり、財務内容に特段の懸念はない。以上を踏まえ、格付をAとした。一方、日本製鉄の格付の見通しがネガティブであることから、当社の格付の見通しもネガティブとした。
- (3) 事業環境が変化する中でも一定の利益水準を確保してきた。一般形鋼のメーカーは集約が進んでおり業界秩序が安定しているほか、継続的なコスト削減や品質向上などを通じ高い競争力を維持してきたことが背景にある。原料である鉄スクラップの価格変動と販売価格改定のタイムラグによる影響はあるものの、これらの要因が下支えとなり今後も業績は底堅く推移するとみられる。他方、インドネシア KOS 社は現地の需要の伸び悩みによって利益貢献が遅れており、今後の拡販および業績改善が課題である。
- (4) 新型コロナウイルスの影響を合理的に算定することが困難であるため、21/3期業績予想は未定となっている。他方、21/3期は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う工期の遅れなどによって建設向け需要が前期比減少する見通しである。このため、販売数量の減少に伴い業績が弱含むとみられる。ただ、今後も一定のメタルプレッド（原料価格と販売価格の差）は確保できると考えられるほか、中期的には都心再開などでの需要が見込まれ、業績は回復に向かうとJCRは見ている。
- (5) 21/3期第1四半期末の自己資本比率は72.1%であり、また長期にわたってネット・キャッシュ・ポジションにあるなど、財務の健全性は高い。20/3期以降は堺工場の圧延ライン強化にかかる投資が本格化しており、21/3期も設備投資額は高水準となる見通しである。ただ、潤沢な手元流動性を有しており、財務構成への影響は限定的とみられる。

（担当）水川 雅義・近藤 昭啓

■格付対象

発行体：大阪製鐵株式会社

【新規】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	ネガティブ

格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2020年10月8日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：殿村 成信
主任格付アナリスト：水川 雅義
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「鉄鋼」(2012年3月26日)、「親子関係にある子会社の格付け」(2007年12月14日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 大阪製鐵株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル